

のんびり小太郎。

いつも、どんなに疲れて帰ってきてても、小太郎のぼや～んとした
かわいい眼差しに癒されていました。

朝、どんなにこちらが急いでいても、マイペースで、
流動食をのんびり、心ゆくまで堪能してくれていた小太郎、
おかげで、朝はいつも30分は余裕をもって準備するようになりました。
それなのに、小梅のお誘いには急いで逝ってしまうなんて・・・。
これも、マイペースと言うのでしょうか？

何をするにも、悪気はないのです。

いつも、小梅の次と、二番目で控えていた小太郎。
小梅と同じくらいかわいいと、かわいがってるつもりでしたが、
パパから
「小梅と比較するな。」
と、よく注意されていたママ。

小太郎、あなたは本当に幸せでしたか？

小梅が逝ってしまってから、独りぼっちになって、とっても寂しそうだった小太郎。
だから、少しでも、あなたの傍にいたくちや！！
と、仕事からも早目に、仕事帰りの買い物に行く回数を減らして、
たまには、寝ているあなたをねぐらからひきずり出して、わざわざ自分のお腹の上に載せて寝かせようとしてたり、
あなたの好きなおもちゃを探して、一緒に遊んだりもしました。

でも、今、振り返れば、小梅が逝った後、寂しがっていたのはパパ、ママの方で、
小太郎はもっと早く小梅のそばに行きたいのを我慢して、
生来、弱い体にむち打って、私達を励まし続けてくれたのですね。
小太郎、だるそうな様子に気づいてあげられなくて、ごめんね。
でも、今朝、迎えに行ったとき、小太郎の体はまだ温かいままでした。
パパ、ママがそばに来て、あなたを抱いた時、小太郎、あなたはまだそこに居ましたか？

今は小梅の傍に着いたでしょうか？

いままで約1年も我慢したぶん、いっぱい小梅に甘えなさいね。
小梅、小太郎をお願いね。